

令和6年度 病虫害発生予察情報(美濃地域) 10月予報

【 トマト・キュウリ 】

コナジラミ類 * 病虫害発生予察注意報第5号 (R6.9.12付) 発表

トマト施設周辺に設置している粘着板へのコナジラミ類の誘殺数は平年に比べ多く推移しています。今後は気温の低下とともに、施設内へ侵入すると予想されます。タバココナジラミはトマト黄化葉巻病 (TYLCV)、トマト黄化病 (ToCV) 及びキュウリ退緑黄化病 (CCYV) のウイルスを媒介します。施設内をよく観察し、発病株を確認した場合は、伝染源となるため早期に取り除き、本虫に効果の高い薬剤によって防除を実施してください。

【 大豆・野菜類 】

ハスモンヨトウ * 病虫害発生予察注意報第3号 (R6.8.23付) 発表

フェロモントラップへの誘殺数は、平年を大幅に上回っています。向こう1か月の気温は「高い」と予想されているため、本虫の発生に好適な条件がしばらく続くと考えられます。幼虫は齢期が進むと薬剤の効果が低下するため、若齢幼虫の防除に重点を置いてください。

大豆では、新たな白変葉等、食害を確認したら、ただちに防除を実施してください。施設栽培では、防虫ネットを張って成虫の侵入を防ぐとともに、卵塊を見つけ次第除去してください。

○主な病虫害の発生時期及び防除時期 (10月)

<露地及び雨よけ (夏秋) >

作物	病虫害名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
かき	カメムシ類	多							・園への突発的な飛来に注意する。 ・収穫前日数を確認して防除する。
	防除適期		(ほ場で確認したら速やかに行う)						
トマト	灰色かび病	やや少							・サイドビニール被覆を行うと、本病の発生が助長されるため、発生に注意する。
	防除適期		(ほ場で確認したら速やかに行う)						
野菜類	ハスモンヨトウ	多							・ハスモンヨトウ 若齢幼虫のうちに防除する。 ・薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	アザミウマ類	やや少							
	アブラムシ類	やや少							
	防除適期		(発生状況により随時行う)						

<施設 (冬春) >

イチゴ	ハダニ類	並							・炭疽病 発病株はただちにほ場外へ持ち出して処分する。
	炭疽病	少							
	防除適期		(発生状況により随時行う)						
トマト	コナジラミ類	多							・コナジラミ類 薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	灰色かび病	少							
	防除適期		(発生状況により随時行う)						
キュウリ	褐斑病	やや少							・褐斑病 罹病性品種では発生に注意する。 ・うどんこ病 発病がみられるほ場では早期に防除を行う。
	うどんこ病	少							
	べと病	やや少							
	防除適期		(発生状況により随時行う)						

注1) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃及び東濃地域

注2) 調査品種: かき (富有)、イチゴ (濃姫、美濃娘、紅ほっぺ)、トマト (夏秋: 桃太郎ギフト及び麗夏、冬春: かれん)、キュウリ (まりん)

灰色かび病

夏秋トマトの一部ほ場では、葉先枯れや花がらなどの枯死部から発病しています。伝染源となる花がら、葉先枯れ部分は早めに取り除き、ほ場外へ持ち出して処分してください。

なし黒星病

本病は、前年の落葉上に形成される子のう胞子と腋花芽基部に形成される分生子が第一次伝染源となり、葉や果実に発生します。本年は平年と比べて早い時期から平年より多くの発病が確認されました。ほ場内の菌密度を下げるため、落葉した葉を除去し、収穫後の秋季防除を徹底してください。

=施設栽培の病虫害について=

施設栽培では、作型や栽培環境などにより施設ごとに病虫害の発生状況が異なります。施設内をよく観察し、病虫害の発生状況に応じた防除を実施してください。

東海地方1か月予報 (名古屋地方気象台 9月26日発表)

向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ないと予想されています。暖かい空気に覆われやすいため気温は高くなるでしょう。

岐阜県病虫害防除所では、この他にも病虫害の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸 729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767



岐阜県病虫害防除所
トップページ
二次元バーコード